

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : Winona State University

留学期間 : 平成 25 年 8 月 13 日 ~ 平成 29 年 5 月 9 日

1. 留学中の生活

平成 29 年 5 月に約 4 年間のアメリカでの留学生活が終了しました。振り返れば長かったような短かったような 4 年でした。

学業の面では、最後の 1 年は上級クラスの専門的な授業やセミナーなどで自分の興味のあるトピックについて研究し、論文を書くことが多かったです。その研究やプロジェクトを発表する機会も多く設けられ、卒業前の春学期には三つの会議に参加しプレゼンテーションをしました。一つ目の「6th Annual Minnesota Conference of Undergraduate Scholarly and Creative Activity」という会議では、学生活動家としての活動や成果をプレゼンテーションで発表しました。Gender-Based Violence（ジェンダーに基づく暴力）の現状を訴え、学生や地元のコミュニティを教育することによって、その問題の認識を高める運動や防止策など私の大学独自の教育、そしてトレーニング法などを他校の生徒や教授と共有する場となりました。そして二つ目の「Latinx Civic Engagement Forum」というスペイン語学科主催のフォーラムでは、ミネソタ州の州立高校に通う多様なバックグラウンドを持つマイリリティの生徒たちに、「アイデンティティとは何か」や「学生の声の影響力」についてのプレゼンテーションを通し、高等教育の意義を伝えました。最後に、4W Summit on Women, Gender and Well-being and 40th Wisconsin Women and Gender Studies Conference という三つ目の研究発表会では、国家安全保障のために軍事力の使用などを正当化する Militarism（軍事主義）と Violence（暴力）の関係性、そして国境を超えた視点からの Activism（活動主義）についての研究のプレゼンテーションをしました。このように色々な場で、自分が関心と情熱を持っているトピックについて学び共有できたのも、常に積極的に自分から進んで情報を得ようと努力したことや教授やクラスメイトからの誘いがあったおかげです。

さらに仕事面では、二回生の夏から続けている RE Initiative という学内の組織で、Educator として Gender-Based Violence について生徒たちの認識と理解を高めるトレーニングを行ったり、今年からは公認の Advocate として Gender-Based Violence の被害者専用の Helpline（悩み事相談電話）の 24 時間対応をしたりもするようになりました。Advocate は、勤務日であれば深夜であろうと授業中であろうと、Helpline に電話がかかれば相談者のシチュエーションに応じた情報の提供や対応をするのが義務です。被害者のみならず、連携して働いている地元の警察や緊急病院から、事件の報告や被害者との面会又は病院への同行や接近禁止令の申立ての手続きのお手伝いを依頼されることも多々ありました。このお仕事は、私の副専攻である女性・ジェンダー・セクシュアリティ学とも深い関係がありました。教室で学んだ知識を実際に現場で活用し、この分野についてより理解を深めることができたため、Advocate

としてのお仕事に巡り会えたことに感謝しています。

2. 留学の成果

卒業するまでの4年間、学業への取り組みはもちろん、それ以外の課外活動にも力を注いできました。4回生の秋学期は、去年の模擬国連世界大会参加に続き、シカゴでの模擬国連アメリカ大会に参加し、大学の模擬国連クラブでは秘書に就任もしました。そして会長を務めるJapan Clubでは、毎年様々な文化イベントを催してきましたが、私が会長として最後の年には目標だった大イベント「春祭り」を実現させることができました。提灯やお面などのデコレーション、ヨーヨー釣りやスーパーボールすくいなどのゲーム、そして日本のお祭りでは定番のラムネ、お好み焼、りんご飴、綿菓子なども手配し、色んな人の協力のもと、このイベントを成功させ、最高の思い出を作ることができました。

卒業の際には、幸いにも専攻の国際学部と副専攻の女性・ジェンダー・セクシュアリティ学部のそれぞれ二つの学科から優秀学生賞を授与され、大学を優等 (magna cum laude) で卒業しました。そして今年の9月からは、イギリスのLondon School of Economics and Political Scienceの大学院で人権学を学ぶことが決まり、次は修士号を取得する予定です。

3. アドバイス

この留学生生活を思う存分楽しみ、悔いの残らない4年にできたのも、家族や友達、教授やたくさんの方々の手助けしていただいたおかげです。留学して気付かされたことは、周りに支えられてこそ今の自分がいるということ。この4年間たくさんの方々のご支援のおかげで、様々な会議、お仕事、講演会などに携わる機会を設けられ、これまで数多くの苦境を乗り越えることもでき、人との縁、繋がりがどれだけ大切なのかを身にしみて感じます。大学生活を共に過ごした友人は一生の友達であり、お世話になった教授はこれからもずっと私のメンター (mentor) です。私は「留学 = 自立」とは考えず、誰かに助けられているということを忘れず、常に初心に戻り感謝の気持ちを忘れないように心がけています。

そして何よりも一番大切なのは、自分の行動力。いくら周りにサポートしてもらっていても、自分が動かなければ周りも動かないし、何も起こらない。やはり最後は自分次第。失敗や不安を恐れず、自ら一歩踏み出す勇気が、自身に自信を与え、またそれが次のステップに繋がります。チャンスは自ら掴みに行くものであり、道は自分で切り開いて行くものなのです。